

## 報 告

## 第71回日本歯科理工学会学術講演会報告

平成30年度春期第71回日本歯科理工学会学術講演会が、4月14、15日に大阪歯科大学歯科理工学講座教授、今井弘一先生を大会長として開催された。学術講演会は大坂歯科大学 楠葉学舎、懇親会は同大学 学舎内の食堂で開催された。立地として駅から近く便利であり、初めて訪れた会員も、大学がきれいに清掃され、設備が十分に備わっているという印象を持った方も多かったのではないだろうか。

本大会における一般講演の演題数は、研究奨励賞口頭発表の大学院生部門1題、若手研究者部門1題を含む口頭発表が21演題、ポスター発表が81演題の計102演題であった。この他に、Dental Materials Adviser/ Senior Adviser 特別セミナーを兼ねた特別講演とランチョンセミナー、シンポジウム、企業展示が開催された。研究奨励賞に応募された発表は、いずれも質が高く、大いに今後の発展が期待された。

会期中は曇りであるものの好天に恵まれ、晴れ間では新緑がまぶしかった。口頭発表、ポスター発表ともに多数の来場者があり、活発な討論、質疑応答が行われた。

大会初日の口頭発表では、コンポジットレジン、レジン、生体用セラミックス、チタンをテーマとした11演題の講演が行われた。ポスター発表では、レジン、コンポジットレジン、接着、生体用セラミックス、インプラント、CAD/CAM、加工法、滅菌・消毒、予防をテーマとした41演題の発表が行われた。特にポスター会場では、多くの白熱した議論が行われ、熱気にあふれていた。午後には、定時社員総会・会員総会が開催され、新理事

長 今里先生からの「一人ひとりが一つ上の段階へ」との挨拶が特に印象に残った。特別講演は「インプラント治療に関わる医療機器開発におけるレギュラトリーサイエンス」との演題で、大阪歯科大学口腔インプラント学講座教授の馬場俊輔先生にご講演いただいた。各種医療機器開発のトランスレーショナルリサーチに必要な規制と現状について整理しながらお話いただき、通常ではなかなか聞くことができない承認申請の全体およびプロセスが理解できる内容であった。出席者は大いに感銘を受け、研究成果の承認申請のための必要知識を深めることができた。懇親会では、周辺の歴史や大阪歯科大学の歩みについての話があり、多くの方の苦勞のおかげで現在があることを実感させられた。

大会第2日目の口頭発表では、生体材料、器機・技術、臨床応用をテーマとして8演題、ポスター発表では、生体組織、細胞、毒性、接着、コンポジットレジン、ワックス、歯科用合金、チタン、セメント、試験法、臨床応用、保存、補綴をテーマとして40演題の発表が行われた。ランチョンセミナーでは「ヤマキンのものづくり—貴金属製造販売業から歯科材料を主とした研究開発型企業への変遷—」と題し、YAMAKIN株式会社の山添正稔氏によるヤマキンのこだわりが強い歯科材料開発コンセプトなど興味深いお話を聞くことができた。理工学会への積極的な参加とともに底力を持った研究開発型となった姿勢に深く感銘を受けた。

今井弘一大会長、橋本典也準備委員長をはじめとする運営スタッフの方々のご尽力により、本学術講演会はつつがなく進行し盛会のうちに終了した。スタッフの皆様にも深く感謝申し上げます。第71回日本歯科理工学会学術講演会の報告とさせていただきます。

赤坂 司

(北海道大学大学院歯学研究院生体材料工学教室)

